

アブチロン ベラ・シリーズ

従来のミックスに加え 6 色の色別品種がご利用いただけます

■ F₁ ベラは現在、アプリコットシェード、ディーブコーラル、ピンク、レッド、サーモンシェード、バニラがご利用いただけるようになりました。これらの各色は従来のオリジナルミックスと比べると、葉が小さくなり、分枝も向上したため、草姿がすっきりととても洗練され落ち着いた印象を受けます。アブチロンは、近年アメリカでは春出荷に限定せず、秋市場へ向けての出荷品目としても注目されています。

■ 実生タイプのベラ・シリーズは、高発芽種子と仕上がりの早さが生産上とても魅力の品種です。日照環境整っていれば、播種後 11-13 週で出荷可能です。

■ ベラ・シリーズは、イン・ドア、アウト・ドアを問わず多様にお使いいただけるアブチロンですが、アウト・ドアでは強い陽射しの下では遮光しましょう。ストレス障害や葉焼けを起こすことがあります。この品種はイン・ドアでも長く花が咲きつづけます。また温度が下がってくると花の色付きが濃くなります。

■ アブチロン・ベラは、株バランスを考慮して最低でも 10.5cm ポットで仕立てたい品種です。ハンギングや大鉢に仕立てるとより豪華な株となって、販売価格のアップが期待できます。

■ 株は旺盛に 35-40cm の丈に達し、7cm の大きな上向きのベル状の形をした花がたくさんつきます。

■ 西洋カエデのような趣のある葉をもっていて、従来のオリジナルミックスよりも色別品種の方の葉は小さめに改良されおり、花つきの点も向上しています。

■ ベラ・シリーズは、アプリコットシェード、ディーブコーラル、ピンク、レッド、サーモンシェード、バニラの各色別品種のほかセレクトミックスとオリジナルミックス(従来品種)をご利用いただけます。

アブチロンの栽培管理

培 地

水はけがよく、新しく衛生的な、ピート主体の培地を使いましょう。土壌 pH5.5-6.5 を確認し、初期養分量(基肥)は中程度に調整しましょう。

温 度

夜 温: 15-18℃

昼間温: 18-21℃

15℃を下回る温度条件が続くと生長が遅れ、仕上がりにまでに時間が長くなります。逆に、30℃を超える温度条件が長く続くと、生理障害によって花芽が飛んでしまうことがあります。

照 度

アブチロンの健康な生育のためには十分な日照が必要で、適温域の範囲で十分、照度がとれるように管理します。HID で補光すると開花を助長します。照度が不十分だと丈が伸びやすくなります。

かん水

水切れによる枯渇やストレスがおきないように注意しましょう。

肥 料

アブチロンは見た目ほど肥料食いではないので、軽めの肥料設計が適当です。かん水と交互に 150ppm(窒素値)で窒素比の高い肥料を与えます。ただしアンモニア態肥料の過剰投与は、栄養生長が進み葉だけが大きくなって葉が花を隠してしまうので注意します。電気伝導度(EC 値)は 1.0mmhos/cm(1:2)に調整します。また過剰な施肥は開花遅れの原因につながります。

矮化处理剤

ポット上げ後、葉がとなりのポットに触れ始めたら早めに十分株間のスペースをとってやることで、自然に適正な草丈に育ち、美しい分枝が生み出されます。株をどうしても抑えて作りたいという場合は、鉢上げ後 2,3 週で 5ppm のボンザイを葉面散布します。上記の色別品種の場合はこの 1 回の散布で十分な効果が期待されますが、オリジナルミックスの場合は、必要であれば 2 週後に再度、同濃度で追加します。

ピンチ

ベラ・シリーズの色別品種に関しては、ピンチを行わなくとも、葉がポットの側面に到達したら適切なスペースをとってやれば、十分に美しい分枝を期待できます。

オリジナルミックスの株の分枝を張らせるには、フローレル®の使用で高い効果が見られます。鉢上げ後2週間でフローレル 500ppm を葉面散布し、1週間後に一度ピンチします。フローレルにより開花は1、2週遅れますが、揃いよく3、4本の分枝が上がってきます。葉がポットの側面に到達したら十分スペースをとるようにしましょう。

栽培スケジュール

播種からポット上げ (400穴プラグトレイ): 4 -5 週
ポット上げから開花:

18-21℃の環境だと7-9週で開花しますが、温度や日照が足りないと開花まで12週もかかることがあります。より高い照度条件を設定することが、開花を早めるポイントです。ただしアブチロンは日長反応で開花が調整される植物ではありません。

コンテナサイズ	栽植本数/鉢	鉢上げ後開花週数	
		春/夏	秋/冬
10-11cm ポット	1	7-9	9-12
13cm ポット	1-2	7-9	9-12
15-16cm ポット	2-3	8-10	10-13
20cm バスケット	3-4	10-12	12-15
25cm バスケット	4-6	10-12	12-15

予想される一般的な生育障害

害虫: アブラムシ、ハダニ、スリップス、ホワイトフライ

病気:
リゾクトニア: 根腐れや茎の腐食のような典型的症状が現れます。表皮組織に濃褐色あるいは黄褐色の病斑が現れます。リゾクトニアによる障害が発現された場合は、市販のこれらの症状に効果のある殺菌剤を、その使用書にしたがってご使用ください。

ピシウム: ピシウム菌による立ち枯れ、根や組織の軟化や変色といった症状が現れます。ピシウム菌による障害が発現された場合は、市販のこれらの症状に効果のある殺菌剤を、その使用書にしたがってご使用ください。

ボトリティス: 葉や花に黄褐色、茶褐色の病斑が現れます。この病気の抜本的対策は、まずハウスの空気循環を向上させることです。空気循環が改善されてから、ボトリティスに効果のある殺菌剤を、その使用書にしたがってご使用ください。

葉害:

アブチロンは、乳化凝固剤を含む有機系溶液の殺虫・殺菌剤に過敏に反応し、花や株に障害が現れることがあります。

*フローレルは日本国内では販売されていませんが、近い成分としては、開花抑制に使われるエテフォン (Ethephon) が比較的近いホルモン剤となります。日本国内ではエテフォンを10%含有する液剤が販売されています。希釈は薄めの濃度から始め、試験使用を適宜、繰り返してからご使用ください。

注意点: EC 値(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、土を用いた配合では適合し得ない場合があります。

PanAmerican Seed

PanAmerican Seed Co.

622 Town Road, West Chicago, Illinois, USA 60185-2698

630 231-1400 Fax: 630 231-3609 www.panamseed.com

®および®は、Ball Horticultural Company のアメリカ合衆国、またその他国における登録商標です。

© 2000 PanAmerican Seed Co. Printed in Japan

Originally issued as PAS02070 in USA, and under permission translated into Japanese in 2005. Printed in Japan